

市内の渋沢栄一ゆかりの施設

市では、渋沢栄一ゆかりの施設が多数存在する地区を『論語の里』エリアとして整備してきました。

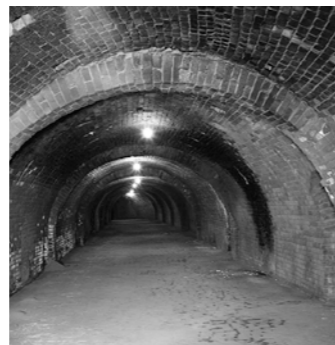
皆さんもぜひ、一度足を運び栄一の偉大な功績と栄一を育んだ空気に触れてみませんか？

誠之堂



大正5年に栄一の喜寿を祝い、第一銀行の当時の行員が出資して建てられました。栄一は、第一銀行の初代頭取を務めていました。
平成11年に東京都世田谷区から深谷市に移築され、平成15年に国の重要文化財に指定されました。

旧煉瓦製造施設



※煉瓦史料館は土・日曜日公開中

栄一は明治20年に日本煉瓦製造会社の工場を地元深谷市につくります。この工場で作られたレンガは東京駅や日本銀行、誠之堂などさまざまな建築物に使われました。
現在、窯は保存修理工事中で、見学の見学再開は令和5年頃の予定です。

旧渋沢邸『中の家』



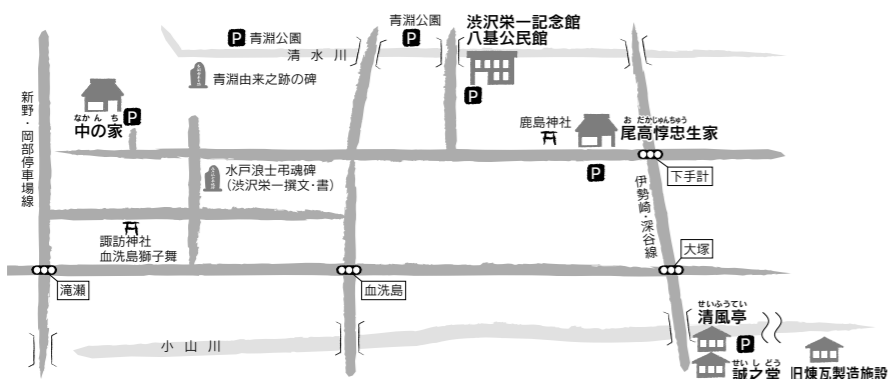
旧渋沢邸『中の家』は、渋沢栄一誕生地に、栄一の妹夫婦によって明治28年に建てられました。屋根に天窓があり、当時の典型的な養蚕農家の形を残しています。栄一が、多忙な中で帰郷した際に立ち寄り、寝泊まりをした家です。

渋沢栄一記念館



栄一に関連する資料が展示されている資料室には栄一が実際に身につけて舞ったと伝えられる獅子舞の獅子頭や、青淵由来の碑の拓本などさまざまな資料を展示中です。栄一が83歳の時に講演した肉声も聞くことができます。

渋沢栄一関連施設案内図



『論語の里』エリアには、上に紹介した施設以外にも、栄一の論語の師でもある尾高惇忠の生家など大小さまざまな史跡があります。エリアを少し離れますが、上で紹介した日本煉瓦製造(株)旧煉瓦製造施設『 Hoffman 輪窯6号窯』など、他にも栄一が関わった施設が残されています。

渋沢栄一翁 新1万円札に

4月9日、財務省は深谷市出身の渋沢栄一を新1万円札の肖像にすると発表しました。栄一は『日本資本主義の父』と称された実業家としての顔だけでなく、社会福祉事業や国際親善にも尽力しました。

渋沢栄一の生涯

渋沢栄一は、天保11年(1840年)、現在の深谷市血洗島の農家に生まれました。

24歳のころ、徳川幕藩体制に疑問を抱き、『高崎城乗っ取り』を計画するなど、尊王攘夷運動に加わりましたが、その後、一橋家および幕府に仕え、慶応3年(1867年)、第15代将軍徳川慶喜の名代徳川昭武に随行して渡欧。約1年余滞在中で、ヨーロッパの進んだ思想・文化・社会などを目の当たりにし、大きな影響を受けました。

明治元年11月(1868年)に帰国した後、大隈重信の説得により明治新政府の大蔵省に仕え、財政の整備に当たりましたが、大久保利通らと財政運営で意見が合わず明治6年(1873年)に辞職。

その後は実業界で活躍しました。幼い頃から学んだ『論語』の精神を重んじ『道徳経済合一説』を唱え、各種産業の育成と多くの近代企業の確立に努め、第一国立銀行をはじめ創立に関わった企業は500以上を数えます。
また、身寄りのない子供や老人を養う『養育院』を設立するなど、600を超える社会福祉事業に関

わりました。そして、昭和6年(1931年)に91歳で亡くなるまで、国際親善にも貢献しました。このように、実業家としてだけでなく、社会福祉や国際親善など幅広い活動が評価されて、今回の新1万円札の肖像に採用されたのではないのでしょうか。
新1万円札は2024年の上期に発行される予定です。

表紙のもとになった写真



▲渋沢史料館に収蔵されている写真。表紙はこの写真をもとに市内在住の渋沢敦雄氏が油絵で描いたものです。



令和元年度
まちづくりの方針と予算

令和元年度 主な重点施策

母子健康包括支援事業

1億580万7千円

妊娠期から子育て期にわたるまで、切れ目のない支援を行うほか、妊婦健康診査の助成、産後ケア事業などを実施し、安心して出産・育児が行える環境づくりを推進します。産後ケア事業については宿泊型、日帰り型に加え、新たに、支援を必要とする家庭へ伺う訪問型のサポートを実施します。



▲保健師による育児相談



▲自治会館での『通いの場』

高齢者自立支援事業

1,780万円

高齢者の介護予防と社会参加を促進するため、住民が主体となって運営する『住民主体の通いの場』の立ち上げを支援します。また、通いの場で実施する『深谷③っかつ体操』の指導を行うなど、通いの場を支える『介護予防サポーター(通称:ふっかつファイブ)』の養成を行います。

産業価値向上事業

2億2,972万円

ふるさと納税、6次産業化、ブランド化を一体的に推進し、市内産業の高付加価値化と販路拡大を図ります。新たに、地域の農業課題を解決する先進的・革新的企業などを対象とした『アグリテックコンテスト』を開催し、深谷に多くの農業やIT、食品関連企業などの集積を図ります。

小学校健康・安全教育推進事業

3,052万5千円

定期健康診断などによる健康管理や登下校時の児童見守りなどの安全管理を行います。今年度から新たに、『子ども110番の家』を推進し、すでに実施している『子ども110番の家』の取り組みと併せ、地域と連携した見守り体制の整備を図ります。

シティセールス推進事業

2,017万3千円

市内外に向けて深谷の魅力を効果的に伝えるため、テレビや雑誌媒体などを活用した戦略的な情報発信を行います。また、移住定住プロモーションとして、『ふかやに住みたくなる、住み続けたくなる』ような市の魅力を紹介し、市のイメージや知名度の向上、定住人口の増加につながる取り組みを推進します。



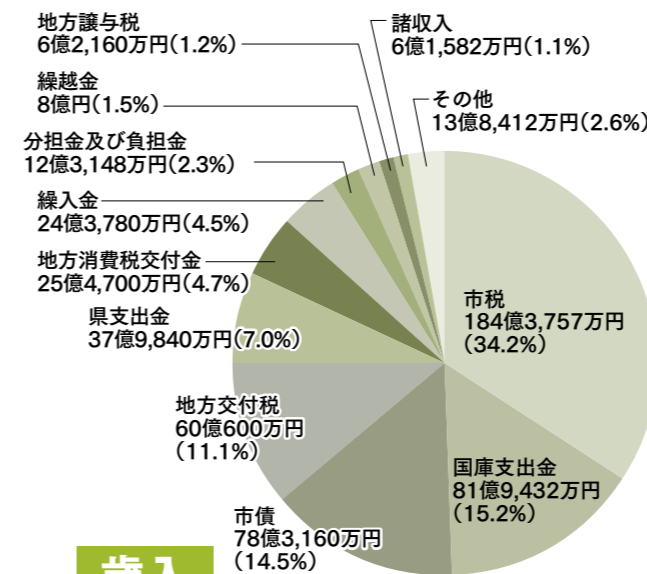
▲深谷市魅力発信ポータルサイト

『元気と笑顔の生産地 ふかや』の将来都市像を一層確かなものとするための予算

令和元年度
まちづくりの方針と予算

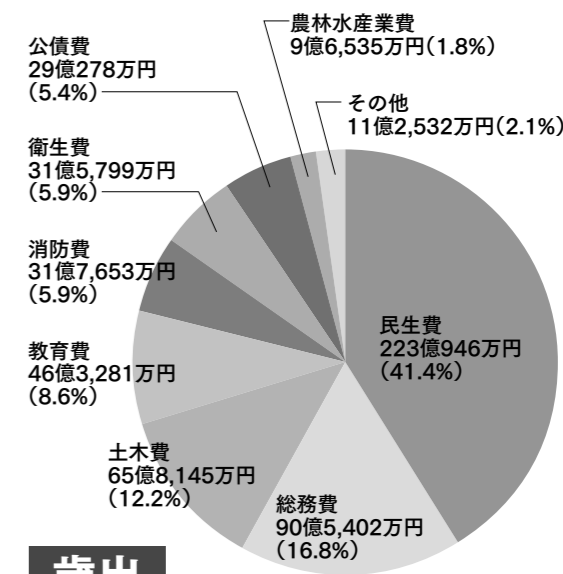
今年度は第2次深谷市総合計画に掲げる『元気と笑顔の生産地 ふかや』の将来都市像の実現を一層確かなものとするための予算として編成しました。今月の特集では、まちづくりの方針と予算について、重点施策を中心にお知らせします。

当初予算額	一般会計	539億 570万4千円
	特別会計	314億2,336万8千円
	総額	853億2,907万2千円



歳入

新庁舎の建設や消防分署耐震化などに伴い、市債が一時的に増加していますが、有利な地方債である『合併特例債』を活用し、適切な財源確保に努めています。



歳出

高齢者や子どもなどさまざまな福祉分野に使われる『民生費』が歳出の中で最も大きな割合を占めています。

※表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

的かつ効果的な業務執行」として、新設する『ICT推進室』を中心に、AIや定型業務の自動化を図るRPAなどのICTを活用し、市民サービスの向上への取り組みを進めてまいります。3つ目は、『市有財産の適正な管理』として、公共施設の適正配置について、幅広く利活用が図られるよう知恵を絞り、スピーディーな対応に努めてまいります。こうした行財政運営の基盤固めをしっかりと行いながら、現在直面しているさまざまな課題に正面から向き合い、市民サービスの向上を図ってまいります。

平成31年は、平成という元号が最後の年となり、新しい元号のもと、新たな時代の幕開けとなります。私は、常にチャレンジする姿勢で、勇気をもって、新たな時代にふさわしい深谷市を切り拓いていく覚悟です。これからの深谷市が輝かしい未来へと発展するよう、歩みを進めてまいります。

(平成31年2月22日に深谷市議会で発表した施政方針から抜粋)

※1 AI(アーティフィシアル・インテリジェンス)・・・人工知能のこと ※2 RPA(ロボティクス・プロセス・オートメーション)・・・パソコン上での定型業務を自動化するソフトウェア

新たな時代の幕開け

深谷市長 小島進

昨年は、平昌パラリンピック2018において、本市出身の村岡桃佳選手が金メダルを獲得するなど、心弾む明るい話題が多かった年でありました。こうした明るい話題は、私たち市民に『元気と笑顔』を与えてくれます。これはまさに、第2次深谷市総合計画に掲げた『元気と笑顔の生産地 ふかや』という将来都市像であり、この愛する深谷市からより多くの『元気と笑顔』が生まれるよう、今後も全力で市政運営に臨む所存であります。

平成31年度は、『財政基盤の確立』、『効率的かつ効果的な業務執行』、『市有財産の適正な管理』の三つの改革を今後一層推進してまいります。

1つ目は、『財政基盤の確立』として、新たに深谷市の強みである農業にITや製造業を掛け合わせるアグリテックの推進に取り組みます。2つ目は、『効率